

## 平成31年度 意見交換会の報告

平成 31 年4月17日(水)に平成31年度の意見交換会が開催されました。

### 来賓の方々

北海道建設部	建築局長	椿谷 敏雄 様
北海学園大学	名誉教授	奥田 仁 様
北海道建築指導センター	理事長	石塚 弘 様
北海道建築士会	副会長	鈴木 基伸 様
北海道建築士会札幌支部	支部長	長谷川 敏文 様
北海道建築士事務所協会	会長	庄司 雅美 様
日本建築家協会北海道支部	支部長	遠藤 謙一良 様
日本建築構造技術者協会北海道支部	副支部長	島田 知典 様
北海道設備設計事務所協会	会長	種市 由夫 様
北海道設備技術者協会北海道支部	支部長	里中 雅幸 様
北海道不動産鑑定士協会	副会長	増村 哲史 様
北海道建築技術協会	会長	石山 祐二 様

開会の辞	(司会者)		前村 悟
特別講演	北海道経済の課題と展望	北海学園大学名誉教授	奥田 仁 様
	支部長挨拶		富田 克己
	来賓挨拶	北海道建設部 建設局長	椿谷 敏雄 様
	来賓紹介		
開宴	祝杯	日本建築積算協会本部副会長	加納 恒也
	ご歓談		
閉宴	手締め	北海道建築指導センター理事長	石塚 弘 様
閉会			

### 特別講演:北海学園大学名誉教授 奥田 仁 様

- プロフィール

先生は東京都立大学(現在の首都大学東京)を卒業され、1974 年に北海道庁農務部へ入庁されました。その後、道立総合研究所、経済調査室を経て北海学園大学の経済学部へ奉職され、経済学部長、開発研究所所長、研究科長などを歴任されました。専門は地域経済学で、ヨーロッパの地域経済と北海道の比較研究です。

- 講演テーマ『北海道経済の課題と展望』

1. 北海道経済の抱える問題
2. 北海道経済の推移
3. 直面する限界の本質

#### 4. 未来への展望を考える

##### 富田支部長挨拶

奥田先生の講演を聞き、我々が生業としているコストの底流の経済を理解することができました。ありがとうございます。

意見交換会に先立って行われました定時総会は無事に終了し、5人の新役員を迎え、今後の支部活動への決意を新たにしたところであります。

本日は北海道の樺谷建築局長をはじめ、ご来賓の皆様にはご多忙中のところをお出でいただき、ありがとうございます。

4月14日で熊本地震から3年目となりました。また北海道においては昨年の9月に震度7の胆振東部地震が発生しました。積算協会北海道支部では災害への対応が脆弱でしたが、これらの経験を期に対策を強化していきたいと考えています。

支部組織としては全国の他支部や他団体とも協力し、女性技術者の活躍の場を広げるために積女アッサル部会を会員委員会に新たに設けました。

これからも「役に立つ組織」として活動する所存です。本日はありがとうございました。

##### 来賓挨拶:北海道建設部 建築局長 樺谷敏雄 様

総会が無事に終了されたとのこと、お祝いを申し上げます。日頃は道の営繕行政にお力添えをいただき、ありがとうございます。

北海道の建築営繕行政では、建築生産分野のコストコントロールが大きなウェイトを占めています。積算協会が積算士やコスト管理士などの資格認定によって人材育成に取り組んでいるのは、素晴らしいことと存じ上げます。

今年度、北海道では建設業の週休2日制の導入や労務単価の地域格差の見直しなどに取り組みます。そうした中で、積算協会が果たす役割は大きなものがあります。建築物の品質確保にコストコントロールが必要となります。本年度もご協力をお願いいたします。

積算協会の益々の発展を祈念し、挨拶といたします。

##### 祝杯:日本建築積算協会 副会長・専務理事 加納 恒也

積算協会は全国に7支部があり、支部の総会には本部役員が出席することになっていますが、北海道支部は毎年、様々なテーマの講演会を開催していて、人気のある支部です。

今年も奥田先生から経済の話をお聞かせいただき、大変勉強になりました。

ご臨席の皆様のご健勝を祈念し、「乾杯」で盃を交わしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

##### 閉宴(手締め):北海道建築指導センター 石塚 弘 様

奥田先生の経済のお話は大変勉強になりました。私の記憶では、経済の語源は economy ではなく、古代中国の「経国済民」と覚えております。国を治め、民を救済するという意味です。

積算協会の益々のご発展と、ご出席の皆様方のご健勝を記念して「一本締」で本席を締めさせていただきます。

意見交換会の様子



奥田先生による特別講演



富田支部長 挨拶



椿谷局長 挨拶



加納副会長(乾杯)



来賓の皆様と支部長



加納副会長と駒木根前支部長と  
技術協会の石山会長



会場の様子



建築指導センター  
石塚理事長による手締め